

# 静岡への メッセージ

Message to  
SHIZUOKA

プロデューサー

残間里江子さん

Rieko Zamma



## 経歴

1950年宮城県仙台市生まれ。アナウンサー、編集者を経て、'80年に企画制作会社「(株)キャンディッド・コミュニケーションズ」を設立。出版、映像、文化イベント等を多数企画・開催する。'09年には、日本に新しい大人をつくる会員制ネットワーク「クラブ・ウィルビー」を設立。NHKラジオ「どう楽市」にレギュラー出演中。

<http://www.club-willbe.jp/>

## 静岡人的ホスピタリティで、 日本の観光業をリードして

私が仙台から富士市に引っ越して来たのは、中学二年の初夏だった。父が仙台で友人と始めた仕事で上手くいかず、会社をたたんで、新天地を求めてやってきたのだ。

当初、選択肢は二つあって、一つは千葉県木更津市で、もう一つが富士市だった。

「断然、静岡よ。気候は温暖だし、何よりも明るいイメージがいいわ」と言う母の一言で、私たち一家四人は富士市の住人になることが決まったのである。

「静岡に行きさえすれば、新しい人生が待っている」というのがいつしか家族の合言葉になり、私は静岡県に移住をすれば、光の一筋も射さない今までの生活に終止符が打たれ、希望に満ちた明るい未来

が待ち受けていると信じていた。

しかし、そう簡単に人生は変転するはずもなく、我が家の生活自体は思い描いていたようにはならなかった。

それでも、唯一の救いは母が言った通り、穏やかな気候と明朗闊達な人柄の友人たちの存在だった。

仙台は富士市の十倍以上の人口をもつ都会だったが、北に位置しているせい、はたまた県民所得の低さからか、人々の表情には陰りがあった。

人の思いの裏側までを探り、感じたままを口に出すことを躊躇わせる東北人気質は「奥行き」と捉えることも出来るが、子供から無条件の明るさを奪い、屈託を植え付けた。